

■大佛次郎 「鞍馬天狗」皮切りに娯楽小説の連載多数、最晩年には「パリ燃ゆ」など記念碑的歴史小説。猫好きでも際立っていた。

おさらぎじろう

八幡製鉄始・1897＝ 神奈川県横浜市英町で、日本郵船勤務野尻政助、ギンの3男2女の末子に生まれる。本名は清彦。
_13も年上の長兄正英は畏敬すべき存在であった。

日露戦争始・1904＝ 7歳：横浜市太田尋常小学校に入学まもなく、一家をあげて、東京市牛込区に転居し津久戸尋常小学校に転校。_先住の人が置き去りにしていった雑猫‘たま’との出会いが、猫との暮らしの始まりになる。

日露戦争終・1905＝ 8歳：

満鉄発足・1906＝ 9歳：

アヲキ創刊・1908＝11歳：_『少年傑作集』に作文を投稿。

伊藤博文暗殺1909＝12歳： 芝区白金三光町に_転居する時にも、‘たま’を行李に入れて連れて行く。

韓国併合・1910＝13歳： 府立一中に入学。歴史の勉強に熱中。_兄正英が結婚し、その家庭を通じて多くの知己を得る。
この間、_‘たま’が死んでしまうと、猫との付き合いが忘れられず、次々と飼うようになる。

明治天皇没・1912＝15歳：

21ヶ条要求・1915＝18歳： 一中を卒業、第一高等学校仏法科に入学。寄宿寮に入った。

ロシア革命・1917＝20歳： 寄宿寮のルポ「一高ロマンス」を刊行。

本格政党内閣1918＝21歳： 一高を卒業、東京帝国大学法科大学政治学科に入学。

ベルサイユ条約・1919＝22歳： _文学の集まりに出たり、劇団を作ったり、翻訳を発表したり活発に動く。

大暴落・1920＝23歳： 新劇協会による「青い鳥」上演に協力。出演した原田登里(愛称西子)と知り合い、

原敬首相暗殺1921＝24歳： 学生結婚。東京帝大卒業、鎌倉高等女学校の教師となり、外務省にも嘱託勤務する。_ロマン・ロランの「先駆者」を翻訳し刊行。同人誌(潜在)を創刊。

関東大震災・1923＝26歳： 極端に猫嫌いだった妻もすっかり猫好きに。鎌倉高女を退職。_関東大震災を機に、文筆に専念し始め、
護憲三派圧勝1924＝27歳： *大衆芸誌(ポケット)に、時代小説「隼の源次」を発表。鎌倉の大仏裏に住んでいたことから、「大佛次郎」のペンネームを使用する。同誌に鞍馬天狗の第一作「鬼面の老女」を発表して好評、映画化も始まって、以後長期の連載になるとともに、嘱託の外務省も退いて、作家生活に入る。

円本時代始・1926＝29歳： _長兄正英が、「星の文学者」野尻抱影として広く知られるようになった頃には、大阪朝日新聞に「照る日くもる日」を連載。以後、50年休みなく新聞に連載小説を発表。

金融恐慌・1927＝30歳： _『少年倶楽部』に「少年の為の鞍馬天狗 角兵衛獅子」、東京日日新聞に「赤穂浪士」を連載。

共産党事件・1928＝31歳： 「ごろつき船」連載。いざれも、新しい社会層であるサラリーマン階層の知的欲求に応ずる作品だった。
世界恐慌・1929＝32歳： 父が死去。_鎌倉市雪ノ下の新居に転居し、生涯の家となって後は、ますます多くの猫と暮らすようになる。「赤穂浪士」により渡辺賞。「由比正雪」連載。

海軍軍縮条約1930＝33歳： _『改造』に、ノンフィクション「ドレフュス事件」を連載。改造社『現代日本文学全集』の「大仏次郎集」刊行。
この年のエッセイ「黙っている猫の冒険」ものごころのつく頃から傍におり、死ぬ時も傍に在るに違いないと記しているように、家には常に10匹以上の猫がおり、生涯に500匹以上の猫と暮らし、

満州事変・1931＝34歳： 現代小説「白い姉」を連載。以後10年間、横浜ニューグランドホテルを仕事場とする。

五一五事件・1932＝35歳： 「私の猫」以降、晩年に至るまで、多数の猫に関するエッセイを書くことになる。

国際連盟脱退1933＝36歳： 東京・大阪朝日新聞に、横浜を舞台にした小説「霧笛」を連載。カメラに凝って鎌倉写友会を創り、晩年に至るまで、撮影した猫の写真アルバムにして行く。

帝人疑獄事件1934＝37歳： 「夜の真珠」連載。「海のカーニバル」実施。芸文講師として各地で講演。スポーツの趣味が広がる。

芥川直木賞始1935＝38歳： 「プウランジェ将軍の悲劇」連載。_直木賞選考委員となり、以後、最晩年まで休まず続けながら、

二二六事件・1936＝39歳： エッセイ「猫々痴談」、掲載された雑誌(ホーム・ライフ)には、自ら撮った猫の写真も。_現代小説「雪崩」の連載など、次々と新分野が開拓して行く。

日中戦争始・1937＝40歳：

第二次大戦始1939＝42歳： エッセイ「藤の花と猫」には、来宅した人は皆、大小15匹の猫が食事で15皿の並んだ壮観に驚愕とある。

大政翼賛会・1940＝43歳： 芸文春秋社より報道班員として中支戦線に派遣される。

日米開戦・1941＝44歳： 朝日新聞社より戦地慰問で派遣される。以後、戦局に進展に対応して活動。母が死去。

..... 1942＝45歳：

年金+総武装 1944＝47歳： 「乞食大将」。終戦を挟む約1年間の詳細な日記をつける。_大戦中も疎開せずに猫を優先、

敗戦・1945＝48歳： 鎌倉の自宅で敗戦を迎え、朝日新聞に「英霊に詫げる」を発表し、東久邇内閣の参与も努める。

新憲法公布・1946＝49歳： 研究社の雑誌(学生)の筆筆になり、盛んに発言。「苦楽社」を興し、雑誌(苦楽)を創刊。*{こども朝日}に、
童話「スイッチョ猫」を発表、今なお愛されるロングセラーになり、後には、自分にとって、一世一代の傑作とまで言うようになる。挿絵は、やはり猫好きで知られる猪熊弦一郎であった。

新憲法施行・1947＝50歳： 「幻燈」連載。

極東裁判決・1948＝51歳： _毎日新聞に、現代小説「帰郷」の連載し、

三大事件・1949＝52歳： 青少年向けの雑誌(天馬)を創刊するが、不況により苦楽社を閉じる。「宗方姉妹」。

朝鮮戦争始・1950＝53歳： エッセイ「暴王ネコ」。_芸術院賞。

独立回復・1951＝54歳：

メデー事件・1952＝55歳： 「旅路」連載。_新作歌舞伎「若き日の信長」上演、菊五郎劇団のため、以後多くの戯曲を書き下ろす。

自衛隊発足・1954＝57歳： 胃潰瘍の手術。猫を象ったものなら、玩具はもちろん、ランプや絵馬など、手当たり次第に蒐集し続け、猫に関する本も、この年まで20年近く蒐集してきて、日本には少ないと嘆いていたところ、上杉虎重著「猫の歴史」が刊行され絶賛。_「帰郷」が英訳され、以後各国語に翻訳される。

55年体制始・1955＝58歳： 「風船」連載。

国連加盟・1956＝59歳： 咽喉癌の疑いで手術。

インサントラム・1958＝61歳： この年死去した画家木村荘八は、「霧笛」や「幻燈」などの挿絵を描いてくれたが、彼もまた無類の猫好きで、エッセイ「お通夜の猫」には、彼の猫友達ぶりを書き、形見として、彼が蒐集してきた多数の猫を題材にした「おもちゃ絵」(子供が遊ぶための浮世絵)ばかりか、これまた無類の猫好き歌川国芳の、有名な「猫飼好五十三疋」を含む、猫浮世絵を贈られた。「無能なる家族」では鼠捕りに失敗した猫を、「猫の引越し」では、通い猫が子猫を連れて定住してきたことを面白おかしく書いている。_エッセイ長期連載「小さい隅」開始。

美智子妃・1959＝62歳： 「パナマ事件」「桜子」連載。

安保闘争・1960＝63歳： 日本芸術院会員。

タイタイ病始・1961＝64歳： 「炎の柱」連載。*フランスで、パリ・コミュニケーション関係の資料を収集し、{朝日ジャーナル}{世界}に、記念碑的な作品となる「パリ燃ゆ」の連載開始。神奈川県文化賞。

東京リビック 1964＝67歳： 「パリ燃ゆ」の連載終了。文化勲章。鶴岡八幡宮の裏山や鎌倉の自然が、開発で破壊されつつある状況に対し、自然保護運動(ナショナル・トラスト運動)を提唱、

大学紛争始・1965＝68歳： 「鞍馬天狗」はこの年まで、実に40年にわたって連載された。

いざなぎ景気1966＝69歳： 超党派の議員立法によって古都保存法が制定され、_鎌倉は日本のナショナル・トラスト第1号になった。

美濃部都知事1967＝70歳： _朝日新聞に、近代日本の開幕を叙述した「天皇の世紀」の連載開始。

全共闘ビック 1969＝72歳： 菊池寛賞。

トルジョック・1971＝74歳： エッセイ「客間の虎」。この年、講談社版の「スイッチョ猫」が、朝倉撰の絵で発行されるが、エッセイ「ねこ」とわたくし」では、この作品は、一緒に暮らす猫たちを見ている間にできたものと述べている。

日中国交回復1972＝75歳： _15年間連載された「小さい隅」が終了、随筆集「都をだち」刊行。国立がんセンターに入院し、

石油ショック 1973＝76歳： _6年にわたって書き続けてきた「天皇の世紀」を、「病気休載」、絶筆となり、兄野尻抱影の六女政子を呼んで養女とし、猫をはじめ、後を託す遺言をして、没した。業績を記念し、優れた散文作品に贈られる大佛次郎賞(朝日新聞社)が創設される。

1994年、ここにいくつか挙げた60篇近くのエッセイと、小説1篇、童話4篇からなる「猫のいる日々」刊行。

新潮日本文学アルバム、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」。大佛次郎記念館「大佛次郎と猫：500匹と暮らした文豪」により大幅に追補、